

委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	産業建設常任委員会
参加委員 ◎委員長、○副委員長	◎齋藤 仁一 ○山口 文章 菊地 とも子 後藤 誠司 齋藤 勘一郎 佐藤 忠孝 渡部 勇一

1 本市の課題と視察の目的

本市は、農業産出額の落ち込み、農地保全、農村活力の低下など多くの課題を抱えているのに対して、食に対する消費者の関心は高くなっており、「安全、安心」な農畜産物を求める動きが強まっている。令和3年9月には、喜多方市カーボンニュートラル宣言を表明し、より一層自然や環境に配慮する関心が高まり、多面的機能型農業、地球温暖化対策への期待は増大している。 エフビットファームこうち株式会社では、バイオマス発電所と次世代型園芸施設を組み合わせた地域密着型農業クラスター事業による地産地消森林資源の有効活用を進めており、本市施策の参考とするため研修を実施した。
--

2 実施概要

実施日時	視察先	高知県本山町 エフビットファームこうち株式会社
令和5年7月19日（水） 13時20分～15時00分	担当部局	
視察項目	木質バイオマス発電所と次世代園芸施設について	
報告内容	1 本山プロジェクト全体概要 高知県知事から農業クラスター事業の話が持ちかかり、バイオマス発電所を併設した本山プロジェクトは開始された。木質バイオマス発電所の排熱や排ガスを再利用する次世代型園芸施設は、日本初の取り組み。発電所から出たCO2を、さらにハウスの中で再利用することによって、カーボンマイナス、カーボンネガティブと呼ばれる形態となっている。バイオマス発電所では、約4,000世帯が年間に消費する電力相当を再生可能エネルギーとして発電することができ、次世代型園芸施設では、高知県最大の年間240tのパプリカ生産を予定している。 2 本山バイオマス発電所について 約7,000平米の規模の木質バイオマス発電所である。燃料となるチップ材は、未利用木質チップだけに留まらず、枝葉・木皮の比率を大幅に改善し、より未利用要素を高く評価できる材を燃料に活用する。9割ないし9割5分を高知県内の製材業者から仕入れている。 電力会社として認可を受けた「エフビットでんき」事業を開始する等、電力事業者としての資格もあり、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法（FIT法）に基づき、自社で電気を回している。 ■性 能：2MW 木質バイオマス発電 ■ボイラーメーカー：株式会社タクマ製 ■稼 働：令和4年4月1日（4月15日FIT連携開始）	

	3 本山パプリカ農園について 年間を通してパプリカの生産販売をしている。国内品が少なく、目標の 240 t を達成すると、全国生産量ランキングが 12 位から 6 位まで上昇し、高知県産パプリカの認知度向上につながる見込みである。 一方で、必ずしも販売面で収益の高い結果が出ているとは思われない。輸入との競合や、端境期を狙った販売については今後の課題として考えられる。 ■性能：次世代型園芸施設（高軒高温室農業ハウス） ■ハウスメーカー：大仙株式会社 制御システム P r i v a ■稼働：令和 4 年 3 月 15 日定植（栽培開始） 4 地域ビジネス創生による雇用の創出 新規雇用者：約 45 名 うち、バイオマス発電所：12 名 次世代園芸施設：正社員 8 名、パート約 25 名 発電所長以外は、本山町、大豊町、土佐町、大川村の嶺北 4 町村で地元採用 農園では、30 代から 70 代の幅広い年代で、7 割は女性が雇用されており、収穫等の作業をしている。負荷の重い肉体労働はあるものの、基本的には単純作業であるため、役割分担で幅広い雇用が可能となっている。 5 産業廃棄物の有効活用 直接燃焼型の木質バイオマス発電では燃料残差物として燃え殻やばいじんが発生する。令和 5 年 7 月から大学と共同研究する形で委員会を設置し、これらを産業廃棄物として最終処分するのではなく、燃え殻の特性を活かした防草剤としての実証実験を開始している。土壌にばいじんを撒くことによって草が生えてこない要因が、アルカリ性の影響なのか日光が当たらない影響なのか特定した上で、最終処分せずに有効活用の方法を検討している。
考 察 (まとめ)	本山バイオマス発電所の取組みとエフビットファームこうちの取組みが連携されている取組みとなっていることに感心させられた。 具体的には、発電所からの熱源供給にとどまらず、発電所排ガスからの CO₂ も供給しパプリカ栽培に取り組んでいることである。また、地産地消による森林資源活用も大事な視点である。さらに、この事業によって、地元新規雇用があり地域の事業としての位置づけがなされていることである。 今後の課題は、原材料である森林資源の安定的な供給と F I T 制度の維持など国の政策の継続が重要であると感じた。

